

エネルギー白書から

シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

6 エネルギーコストの国際格差の拡大と影響

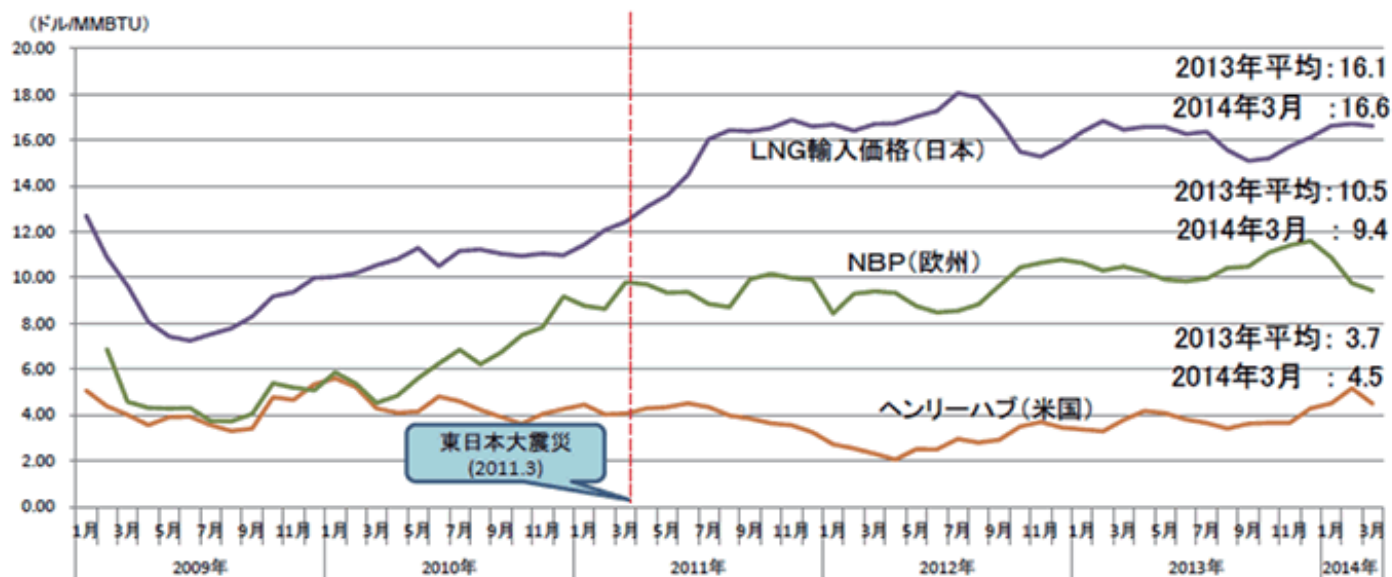
いわゆる「シェール革命」によって天然ガスの増産が進む米国では、天然ガスの国内価格が安価で推移しています。2013年平均の天然ガス価格をみると、天然ガス価格が国内市場の需給バランスで決定される市場である米国では3.7ドル/百万BTU（注1）であるのに対して、欧州の英国で取引される天然ガス市場の取引価格では10.5ドル/百万BTU、また、LNG輸入価格が原油価格と連動する日本では16.1ドル/百万BTUとなっています（注2）。すなわち、米国の天然ガス価格は、欧州の3分の1程度、我が国の4分の1以下となっています（注3）。我が国のLNG輸入価格には、米国内の天然ガス価格には含まれていない、天然ガスを液化するコストや輸送に係るコストが含まれていますが、これらを勘案しても地域間で大きな価格差が見られます。

（注1） BTU（British Thermal Unit）とは、英国熱量単位のことであり、1BTU=1.054kJ=0.252kcal。
MMBTU=1million BTU=100万BTU=1,054MJ=252,000kcal。

（注2） 天然ガス価格については、米国の価格はヘンリーハブ価格、欧州の価格はNBP。
NBP=National Balancing Point（英国市場価格）ヘンリーハブ=米国の天然ガスの指標価格

IEAの「世界エネルギー展望（World Energy Outlook）2013」では、この地域間のエネルギー価格差が継続した場合、世界で産業部門の約7割を占めるエネルギー集約型産業（化学、アルミ、セメント、鉄鋼、製紙、ガラス、石油精製）について、日本、米国、EUを比べた場合、エネルギーコストの面で優位にある米国のみが拡大し、日本、EU合わせて現在の輸出シェアの3分の1を失うと試算されています。また、エネルギー集約型産業による製品の世界市場シェアに関して、2011年と2035年を比較すると、EU企業は2011年のシェア36%から10%減少、日本企業は2010年のシェア7%から3%減少すると予測されています。

国際的な天然ガス価格の比較



（出典） 貿易統計、NYMEX、ICE等を基に作成